

# インド学仏教史専攻分野

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講学期	曜日	講時	頁	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
インド学特論Ⅰ	祭式文献講読 部族の火の東進とヴィデーハ国の建国譚	2	西村 直子	1学期	木	5	1	インド学特論Ⅰ
インド学特論Ⅱ	祭式文献講読 新月満月祭における供物の準備	2	西村 直子	2学期	木	5	2	インド学特論Ⅱ
インド仏教史特論Ⅰ	Graggs pa rgyal mtshan 著『タントラ現観』の原典講読	2	桜井 宗信	1学期	火	2	3	インド仏教史特論Ⅰ
インド仏教史特論Ⅱ	Graggs pa rgyal mtshan 著『タントラ現観』の原典講読	2	桜井 宗信	2学期	火	2	4	インド仏教史特論Ⅱ
インド学仏教史特論Ⅰ	ヴェーダ神話講読	2	堂山 英次郎	集中(1学期)			5	インド学特論Ⅲ
インド学研究演習Ⅰ	インド哲学文献研究	2	西村 直子	1学期	火	4	6	インド学研究演習Ⅰ
インド学研究演習Ⅱ	インド哲学文献研究	2	西村 直子	2学期	火	4	7	インド学研究演習Ⅱ
インド仏教史研究演習Ⅰ	梵蔵漢対照による『俱舍論』の講読	2	桜井 宗信	1学期	月	3	8	インド仏教史研究演習Ⅰ
インド仏教史研究演習Ⅱ	梵蔵漢対照による『俱舍論』の講読	2	桜井 宗信	2学期	月	3	10	インド仏教史研究演習Ⅱ

科目名：インド学特論 I / Indological Studies (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 木曜日 5 講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：西村 直子（准教授）

講義コード：LM14501， 科目ナンバリング：LGH-PHI601J， 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： インド学特論 I 】

1. 授業題目：

祭式文献講読 部族の火の東進とヴィデーハ国の建国譚

2. Course Title (授業題目)：

Vedic literature

3. 授業の目的と概要：

本講義では『シャタパタ・ブラーフマナ』I 4, 1 (B.C. 650 頃以降) に採録される「部族の火の東進とヴィデーハ国の建国譚」を取り上げ、読解演習を行う。講読を通じて、文献学の具体的方法習得に努める。Weber が校訂した Śatapatha-Brāhmaṇa をテキストとして、Mayrhofer: Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen, Gotō: Old Indo-Aryan Morphology, MacDonell: Vedic Grammar for Student, Delbrück: Altindische Syntax 等を参照しながら、文献学の具体的な訓練を行う。

4. 学習の到達目標：

ヴェーダ文献及び祭式に関する知識を習得し、ヴェーダの散文が読めるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1 イントロダクション (テキスト及び参考書について、取り上げる題材の概要、予習の進め方、授業の進め方等について説明)

2 Śatapatha-Brāhmaṇa I 4, 1 (1)

3 同 (2)

4 同 (3)

5 同 (4)

6 同 (5)

7 同 (6)

8 同 (7)

9 同 (8)

10 同 (9)

11 同 (10)

12 同 (11)

13 同 (12)

14 同 (13)

15 同 (14)

6. 成績評価方法：

授業への準備状況 (30%)， 授業で示される理解度 (70%)

7. 教科書および参考書：

Śatapatha-Brāhmaṇa (Ed. Weber, Ed. Kalyan-Bombay); MAYRHOFER: Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen, GOTŌ: Old Indo-Aryan Morphology, MACDONELL: Vedic Grammar for Student; DELBRÜCK: Altindische Syntax; WHITNEY: Sanskrit Grammar 等。

8. 授業時間外学習：

授業は、最初はゆっくり進めるが、後半ではある程度のスピードで読み進めることを目標にする。受講者は、可能な範囲でよいので、単語を調べ、語形を確定し、訳すように努力すること。予習が難しい場合は、授業内容をしっかりノートに書き込み復習すること。

9. その他：なし

履修にはサンスクリット語初級の知識を必要とする。

科目名：インド学特論Ⅱ／ Indological Studies (Advanced Lecture) II

曜日・講時：後期 木曜日 5講時

学期：2学期， 単位数：2

担当教員：西村 直子（准教授）

講義コード：LM24502， 科目ナンバリング：LGH-PHI602J， 使用言語：日本語

【(平成30年度以前入学者) 対応科目名： インド学特論Ⅱ】

1. 授業題目：

祭式文献講読 新月満月祭における供物の準備

2. Course Title (授業題目)：

Vedic literature

3. 授業の目的と概要：

ヴェーダ祭式の伝承はマントラ（祝詞、祭詞、B.C. 1200年頃以降）を根幹とし、これに対するブラーフmana（B.C. 8世紀頃以降）を経てシュラウターストラ（祭式綱要書、B.C. 6世紀頃以降）において体系化されるに至る。ブラーフmanaは、マントラ（祝詞、祭詞）の解釈、祭式行為や道具、供物等の由来を語る神話及び神学議論などを主な内容とし、シュラウターストラの土台を為す部分とウパニシャッド（B.C. 600年頃以降）に展開される哲学議論の萌芽的部分とを併せ持つ。本講義では、ヤジュルヴェーダ諸学派のサンヒターおよびブラーフmanaに採録される、新月祭・満月祭の供物の準備場面で唱えられるマントラとブラーフmanaとを取り上げ、読解演習を行う。講読を通じて、文献学の具体的方法習得に努める。ヴェーダ祭式の基本的伝承スタイルに触れ、ヴェーダの宗教及び祭式文献に関する知識を得るとともに、サンスクリット語の文法・語彙についても更なる理解の深化を目指す。Maitrāyaṇī Saṁhitā I 1, 4-5 および IV 1, 4-5, Kāṭha-Saṁhitā I 4 および XXXI 3, Taittirīya-Saṁhitā I 1, 4 および Taittirīya-Brahmaṇa III 2, 4, Vājasaneyi-Saṁhitā I 6-11 および Śatapatha-Brahmaṇa I 1, 1, 12-I 1, 3 を用い、Mayrhofer: Etymologisches Wörterbuch des Altindiarischen, Gotō: Old Indo-Aryan Morphology, MacDonell: Vedic Grammar for Student, Delbrück: Altindische Syntax, Bloomfield: Vedic Concordance 等を参照しながら、文献学の具体的な訓練を行う。

4. 学習の到達目標：

マントラとブラーフmana原典の講読を通じて、マントラを基盤とする祭式整備の一端に触れ、文献学の具体的方法習得に努める。インドの宗教、文化、言語の源流を確認するための基礎研究入門を目指す。

5. 授業の内容・方法と進捗予定：

1 イントロダクション（テキスト及び参考書について、取り上げる題材の概要、予習の進め方、授業の進め方等について説明）

2-5 Maitrāyaṇī Saṁhitā I 1, 4-5 ~ IV 1, 4-5

6-8 Kāṭha-Saṁhitā I 4 ~ XXXI 3

9-12 Taittirīya-Saṁhitā I 1, 4 ~ Taittirīya-Brahmaṇa III 2, 4

13-15 Vājasaneyi-Saṁhitā I 6-11 および Śatapatha-Brahmaṇa I 1, 1, 12-I 1, 3

6. 成績評価方法：

授業への準備状況（30%）、授業で示される理解度（70%）

7. 教科書および参考書：

Maitrāyaṇī Saṁhitā 及び Kāṭha-Saṁhitā (Ed. Schröder), Taittirīya-Saṁhitā (Ed. Keith), Taittirīya-Brahmaṇa (Ed. Ānandāśrama Sanskrit Series), Vājasaneyi-Saṁhitā (Ed. Weber), Śatapatha-Brahmaṇa (Ed. Weber, Ed. Kalyan-Bombay); MAYRHOFER: Etymologisches Wörterbuch des Altindiarischen, GOTŌ: Old Indo-Aryan Morphology, MACDONELL, Vedic Grammar for Student; DELBRÜCK, Altindische Syntax; WHITNEY, Sanskrit Grammar; BLOOMFIELD: Vedic Concordance, etc.

8. 授業時間外学習：

授業は、最初はゆっくり進めるが、後半ではできるだけ多く読み進めることを目標にする。受講者は単語を調べ、語形を確定し、訳すように努力すること。十分な予習が難しい場合は、授業内容をしっかりノートに書き込み復習すること。

9. その他：なし

履修にはサンスクリット語初級の知識を必要とする。

科目名：インド仏教史特論 I / History of Indian Buddhism(Advanced Lecture)I

曜日・講時：前期 火曜日 2 講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：桜井 宗信（教授）

講義コード：LM12206， 科目ナンバリング：LGH-PHI603J， 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： インド仏教史特論 I 】

**1. 授業題目：**

Grags pa rgyal mtshan 著『タントラ現観』の原典講読

**2. Course Title (授業題目)：**

rGyud kyi mñon par rtogs pa of Grags pa rgyal mtshan : reading

**3. 授業の目的と概要：**

チベット仏教界を代表する宗派の一つ Sa skya 派の管長を務めた Grags pa rgyal mtshan の代表作の 1 つ『タントラ現観』(rGyud kyi mñon par rtogs pa) の講読を通じて、インドからチベットへと伝えられた密教に関する基本的な知識や理論を学ぶとともに、「蔵外文献」を読みこなす上で必要となる古典チベット語読解能力の向上を図る。

**4. 学習の到達目標：**

インド・チベット密教の基礎知識を理解するとともに、チベット語仏典読解力を向上させる。

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

1. 『タントラ現観』講読-1-
2. 『タントラ現観』講読-2-
3. 『タントラ現観』講読-3-
4. 『タントラ現観』講読-4-
5. 『タントラ現観』講読-5-
6. 『タントラ現観』講読-6-
7. 『タントラ現観』講読-7-
8. 『タントラ現観』講読-8-
9. 『タントラ現観』講読-9-
10. 『タントラ概論』講読-10-
11. 『タントラ現観』講読-11-
12. 『タントラ現観』講読-12-
13. 『タントラ現観』講読-13-
14. 『タントラ現観』講読-14-
15. 『タントラ現観』講読-15-

**6. 成績評価方法：**

授業・発表への取り組み (100%)

**7. 教科書および参考書：**

rGyud kyi mñon par rtogs pa Rin po chehi ljon śiñ, 『Sa skya 派全書』Vol.3 (東洋文庫刊), pp.1-70.

**8. 授業時間外学習：**

予習時にテキストの訳読を行い、復習時に新出術語や語法の確認を行う。

**9. その他：なし**

「古典チベット語初級文法の既習者であること」を履修要件とする。

科目名：インド仏教史特論Ⅱ／ History of Indian Buddhism(Advanced Lecture)II

曜日・講時：後期 火曜日 2講時

学期：2学期， 単位数：2

担当教員：桜井 宗信（教授）

講義コード：LM22206， 科目ナンバリング：LGH-PHI604J， 使用言語：日本語

【(平成30年度以前入学者) 対応科目名： インド仏教史特論Ⅱ】

**1. 授業題目：**

Grags pa rgyal mtshan 著『タントラ現観』の原典講読

**2. Course Title (授業題目)：**

rGyud kyi mñon par rtogs pa of Grags pa rgyal mtshan : reading

**3. 授業の目的と概要：**

チベット仏教界を代表する宗派の一つ Sa skya 派の管長を務めた Grags pa rgyal mtshan の代表作の1つ『タントラ現観』(rGyud kyi mñon par rtogs pa)の講読を通じて、インドからチベットへと伝えられた密教に関する基本的な知識や理論を学ぶとともに、「蔵外文献」を読みこなす上で必要となる古典チベット語読解能力の向上を図る。

**4. 学習の到達目標：**

インド・チベット密教の基礎知識を理解するとともに、チベット語仏典読解力を向上させる。

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

1. 『タントラ現観』講読-1-
2. 『タントラ現観』講読-2-
3. 『タントラ現観』講読-3-
4. 『タントラ現観』講読-4-
5. 『タントラ現観』講読-5-
6. 『タントラ現観』講読-6-
7. 『タントラ現観』講読-7-
8. 『タントラ現観』講読-8-
9. 『タントラ現観』講読-9-
10. 『タントラ概論』講読-10-
11. 『タントラ現観』講読-11-
12. 『タントラ現観』講読-12-
13. 『タントラ現観』講読-13-
14. 『タントラ現観』講読-14-
15. 『タントラ現観』講読-15-

**6. 成績評価方法：**

授業・発表への取り組み(100%)

**7. 教科書および参考書：**

rGyud kyi mñon par rtogs pa Rin po chehi ljon śiñ, 『Sa skya 派全書』Vol.3 (東洋文庫刊), pp.1-70.

**8. 授業時間外学習：**

予習時にテキストの訳読を行い、復習時に新出術語や語法の確認を行う。

**9. その他：なし**

「古典チベット語初級文法の既習者であること」を履修要件とする。

科目名：インド学仏教史特論 I / Indological Studies and History of indian Buddhism (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期集中 その他 連講

学期：集中(1学期)， 単位数：2

担当教員：堂山 英次郎（非常勤講師）

講義コード：LM98817， 科目ナンバリング：LGH-PHI605J， 使用言語：日本語

【(平成30年度以前入学者) 対応科目名： インド学特論Ⅲ】

**1. 授業題目：**

ヴェーダ神話講読

**2. Course Title (授業題目)：**

Reading Vedic Myths

**3. 授業の目的と概要：**

古代インドのヴェーダ祭式文献群は多くの興味深い神話を伝えている。本授業ではその中から、鷲 (suparṇa) がソーマを天界から地上へもたらした話を原典で講読する。この神話は幅広い時代層のヴェーダ文献中に散見され、後には叙事詩等のガルダ伝説へと繋がるものである。授業では、成立年代や伝承系統による相違を把握しやすいように、4種のヴェーダ語文献——『リグヴェーダ』、ヤジュルヴェーダ散文、ブラーフマナ文献（2種）——を扱う。テキストの精読と諸伝承の比較を通じて、神話が古代インドの祭式や思想にどのように関係付けられているかを探るとともに、神話伝承のあり方を考えるきっかけにもしたい。

**4. 学習の到達目標：**

複数の異なる時代層と文体のサンスクリット語（ヴェーダ語）に慣れる。文献の一語一語を、韻律、音韻、語源、語形成、語義、シンタクス等の様々な角度から、必要な二次文献を参照しつつ分析・説明できるようになる。

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

以下の順番でテキストを扱う予定であるが、授業の進行状況によって読むテキストや順番の変更もあり得る。

- 1 Introduction; Ṛgveda-Saṁhitā IV 26 (1)
- 2 Ṛgveda-Saṁhitā IV 26 (2)
- 3 Ṛgveda-Saṁhitā IV 27 (1)
- 4 Ṛgveda-Saṁhitā IV 27 (2)
- 5 Aitareya-Brahmaṇa III 25
- 6 Aitareya-Brahmaṇa III 26
- 7 Aitareya-Brahmaṇa III 27
- 8 Aitareya-Brahmaṇa III 28
- 9 Maitrāyaṇī Saṁhitā III 7,3 (1)
- 10 Maitrāyaṇī Saṁhitā III 7,3 (2)
- 11 Maitrāyaṇī Saṁhitā III 7,3 (3)
- 12 Śatapatha-Brahmaṇa III 6,2 (1)
- 13 Śatapatha-Brahmaṇa III 6,2 (2)
- 14 Śatapatha-Brahmaṇa III 6,2 (3)
- 15 Śatapatha-Brahmaṇa III 6,2 (4); まとめ

**6. 成績評価方法：**

予習・復習（特に復習）の程度（30%）、授業中の発言（30%）、テキストの理解度（40%）を総合的に判断して評価する。

**7. 教科書および参考書：**

テキストは講師が用意し、事前に出席者に配布する。参考文献は適宜授業の中で紹介する。

**8. 授業時間外学習：**

翌日の授業範囲のテキストについて、音韻、語源、語形成、語義、シンタクスを調べ、日本語訳を作成する。準備の程度に関わらず、授業内容を復習するための時間を十分に確保し、不明な点は次回授業で質問すること。

**9. その他：なし**

サンスクリット語初級の知識を必要とする。

科目名：インド学研究演習 I / Indological Studies (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 火曜日 4 講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：西村 直子（准教授）

講義コード：LM12404， 科目ナンバリング：LGH-PHI606J， 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： インド学研究演習 I 】

1. 授業題目：

インド哲学文献研究

2. Course Title (授業題目)：

Indian Philosophical Literature

3. 授業の目的と概要：

本講義では、『リグヴェーダ R. gveda』IV 17 および 18 のインドラ Indra 讃歌を取り上げ、読解演習を行う。講読を通じて、文献学の具体的方法習得に努める。Aufrecht が校訂したテキストを用い、Grassmann: Wörterbuch zum Rig-Veda, Mayrhofer: Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen, Gotō: Old Indo-Aryan Morphology, MacDonell: Vedic Grammar for Student, Delbrück: Altindische Syntax 等を参照しながら、文献学の具体的な訓練を行う。

4. 学習の到達目標：

リグヴェーダ原典の講読を通じて、文献学の具体的方法習得に努める。インドの宗教、文化、言語の源流を確認するための基礎研究入門を目指す。

5. 授業の内容・方法と進捗予定：

1 イントロダクション (テキスト及び参考書について、取り上げる題材の概要、予習の進め方、授業の進め方等について説明)

2 R. gveda IV 17

3 同 (2)

4 同 (3)

5 同 (4)

6 同 (5)

7 同 (6)

8 R. gveda IV 18 (1)

9 同 (2)

10 同 (3)

11 同 (4)

12 同 (5)

13 同 (6)

14 同 (7)

15 同 (8)

6. 成績評価方法：

授業への準備状況 (30%)，授業で示される理解度 (70%)

7. 教科書および参考書：

R. gveda-Samhitā (Ed. Aufrecht); Grassmann: Wörterbuch zum Rig-Veda, MAYRHOFER: Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen, GOTŌ: Old Indo-Aryan Morphology, MACDONELL, Vedic Grammar for Student; DELBRÜCK, Altindische Syntax; WHITNEY, Sanskrit Grammar, etc.

8. 授業時間外学習：

授業は、最初はゆっくり進めるが、後半ではできるだけ多く読み進めることを目標にする。受講者は単語を調べ、語形を確定し、訳すように努力すること。十分な予習が難しい場合は、授業内容をしっかりノートに書き込み復習すること。

9. その他：なし

履修にはサンスクリット語初級の知識を必要とする。

科目名：インド学研究演習Ⅱ／ Indological Studies(Advanced Seminar)II

曜日・講時：後期 火曜日 4講時

学期：2学期， 単位数：2

担当教員：西村 直子（准教授）

講義コード：LM22403， 科目ナンバリング：LGH-PHI607J， 使用言語：日本語

【(平成30年度以前入学者) 対応科目名： インド学研究演習Ⅱ】

1. 授業題目：

インド哲学文献研究

2. Course Title (授業題目)：

Indian Philosophical Literature

3. 授業の目的と概要：

本講義では『ブリハッド・アーラニヤカ・ウパニシャッド』第3巻(B.C. 600頃以降)に採録される「ヤージュニャヴァルキヤと諸学匠との対話」を取り上げ、読解演習を行う。講読を通じて、文献学の具体的方法習得に努める。Mayrhofer: Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen, Gotō: Old Indo-Aryan Morphology, MacDonell: Vedic Grammar for Student, Delbrück: Altindische Syntax等を参照しながら、文献学の具体的な訓練を行う。

4. 学習の到達目標：

当時の祭官達の議論の在り方と理解すると共に、ヴェーダの散文が読めるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1 イントロダクション(テキスト及び参考書について、取り上げる題材の概要、予習の進め方、授業の進め方等について説明)

2 Br. had-Āraṇyaka-Upaniṣad III (1)

3 同 (2)

4 同 (3)

5 同 (4)

6 同 (5)

7 同 (6)

8 同 (7)

9 同 (8)

10 同 (9)

11 同 (10)

12 同 (11)

13 同 (12)

14 同 (13)

15 同 (14)

6. 成績評価方法：

授業への準備状況(30%)，授業で示される理解度(70%)

7. 教科書および参考書：

V.P LIMAYE and R.D. VADEKAR eds., Gandhi Memorial Edition. Eighteen Principal Upaniṣads. Vol.I; MAYRHOFER: Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen, GOTŌ: Old Indo-Aryan Morphology, MACDONELL: Vedic Grammar for Student; DELBRÜCK: Altindische Syntax; WHITNEY: Sanskrit Grammar等。

8. 授業時間外学習：

授業は、最初はゆっくり進めるが、後半では毎回7～9詩節読み進めることを目標にする。受講者は、可能な範囲でよいので、単語を調べ、語形を確定し、訳すように努力すること。予習が難しい場合は、授業内容をしっかりノートに書き込み復習すること。

9. その他：なし

履修にはサンスクリット語初級の知識を必要とする。

科目名：インド仏教史研究演習 I / History of Indian Buddhism(Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 月曜日 3 講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：桜井 宗信（教授）

講義コード：LM11303， 科目ナンバリング：LGH-PHI608J， 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： インド仏教史研究演習 I 】

**1. 授業題目：**

梵蔵漢対照による『俱舎論』の講読

**2. Course Title (授業題目)：**

Abhidharmakośa of Vasubandhu : reading

**3. 授業の目的と概要：**

Vasubandhu (世親) の著した『俱舎論』は、説一切有部の教学を簡潔かつ批判的に纏めた綱要書として余りに有名であり、単に有部の思想を把握する上からのみならず、瑜伽行唯識派など大乘仏教の思想を理解するためにも必要欠くべからざる基本典籍である。

この授業では前年に引き続き、同書第 2 章(「根品」)の梵文原典をチベット語訳・漢訳とも対照させながら講読し Vasubandhu の考え方を理解するとともに、“梵蔵漢 3 書を比較対照し考察を進める”というインド仏教文献を扱う際の基本的方法を学ぶことを目的とする。

**4. 学習の到達目標：**

基礎的仏典の読解力を向上させるとともに、重要な術語に関する正確な知識を習得する。

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

1. 『俱舎論』講読-1-
2. 『俱舎論』講読-2-
3. 『俱舎論』講読-3-
4. 『俱舎論』講読-4-
5. 『俱舎論』講読-5-
6. 『俱舎論』講読-6-
7. 『俱舎論』講読-7-
8. 『俱舎論』講読-8-
9. 『俱舎論』講読-9-
10. 『俱舎論』講読-10-
11. 『俱舎論』講読-11-
12. 『俱舎論』講読-12-
13. 『俱舎論』講読-13-
14. 『俱舎論』講読-14-
15. 『俱舎論』講読-15-

**6. 成績評価方法：**

授業・発表への取り組み (100%)

**7. 教科書および参考書：**

用いる基本資料は次の通り：

- ・ 梵文原典：Abhidharmakośa-bhāṣya of Vasubandhu, Ed. by P.Pradhan, Patna, 1967.
- ・ チベット語訳：デルゲ版及び北京版を使用。
- ・ 漢訳：『阿毘達磨俱舎論』（玄奘訳）；『阿毘達磨俱舎論』（真諦訳）。

※『俱舎論』を読解する際に役立つこの他の文献資料については、『梵語仏典の研究Ⅲ』及び『仏教研究入門』が参考になる。

**8. 授業時間外学習：**

予習時に前記基本資料を訳読すると共に、重要術語の内容確認等を行う。

9. その他：なし

「サンスクリット語及びチベット語の初級文法の既習者であること」を履修要件とする。

科目名：インド仏教史研究演習Ⅱ／ History of Indian Buddhism(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 月曜日 3講時

学期：2学期， 単位数：2

担当教員：桜井 宗信（教授）

講義コード：LM21304， 科目ナンバリング：LGH-PHI609J， 使用言語：日本語

【(平成30年度以前入学者) 対応科目名： インド仏教史研究演習Ⅱ】

1. 授業題目：

梵蔵漢対照による『俱舎論』の講読

2. Course Title (授業題目)：

Abhidharmakośa of Vasubandhu : reading

3. 授業の目的と概要：

Vasubandhu（世親）の著した『俱舎論』は、説一切有部の教学を簡潔かつ批判的に纏めた綱要書として余りに有名であり、単に有部の思想を把握する上からのみならず、瑜伽行唯識派など大乘仏教の思想を理解するためにも必要欠くべからざる基本典籍である。

この授業では前年に引き続き、同書第2章(「根品」)の梵文原典をチベット語訳・漢訳とも対照させながら講読し Vasubandhu の考え方を理解するとともに、“梵蔵漢3書を比較対照し考察を進める”というインド仏教文献を扱う際の基本的方法を学ぶことを目的とする。

4. 学習の到達目標：

基礎的仏典の読解力を向上させるとともに、重要な術語に関する正確な知識を習得する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 『俱舎論』講読-1-
2. 『俱舎論』講読-2-
3. 『俱舎論』講読-3-
4. 『俱舎論』講読-4-
5. 『俱舎論』講読-5-
6. 『俱舎論』講読-6-
7. 『俱舎論』講読-7-
8. 『俱舎論』講読-8-
9. 『俱舎論』講読-9-
10. 『俱舎論』講読-10-
11. 『俱舎論』講読-11-
12. 『俱舎論』講読-12-
13. 『俱舎論』講読-13-
14. 『俱舎論』講読-14-
15. 『俱舎論』講読-15-

6. 成績評価方法：

授業・発表への取り組み(100%)

7. 教科書および参考書：

用いる基本資料は次の通り：

- ・ 梵文原典：Abhidharmakośa-bhāṣya of Vasubandhu, Ed. by P.Pradhan, Patna, 1967.
- ・ チベット語訳：デルゲ版及び北京版を使用。
- ・ 漢訳：『阿毘達磨俱舎論』（玄奘訳）；『阿毘達磨俱舎論』（真諦訳）。

※『俱舎論』を読解する際に役立つこの他の文献資料については、『梵語仏典の研究Ⅲ』及び『仏教研究入門』が参考になる。

8. 授業時間外学習：

予習時に前記基本資料を訳読すると共に、重要術語の内容確認等を行う。

9. その他：なし

「サンスクリット語及びチベット語の初級文法の既習者であること」を履修要件とする。